

【事例 H25-01-33】新潟県南魚沼市

自殺予防普及啓発事業 ＝地域で心のサポートを考える会＝

市内の自殺の多い地区を自殺対策重点地区として設定し、地区役員に対し、うつ病と自殺の関連や早期対応の重要性、専門相談機関の紹介等を共有する講演会や話し合いの機会を設けた。繰り返し参加してきた地区役員は、自殺が多いことが健康課題であるにとらえるようになった。

【実施主体】新潟県南魚沼市

【大綱の分類】うつ病など健康問題への対応

【事業予算】平成24年度 365千円

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

- ・H17～H24年の自殺者は男116人、女57人、計173人。年間平均22人。(保健課調査)
- ・男女比は2:1、男性は50歳代をピークに働き盛りから高齢者まで多く、女性は年齢に比例して多くなっている。
- ・南魚沼市における自殺者数は、平成19年度までは年間平均25人、およそ2週間に1人が自殺で亡くなっていた。また、自殺率も全国、県と比較して高かったが、地域には「個人の選択だから仕方がない」という風潮があり、自殺予防対策が緊急の健康課題とされた。
- ・そこで、市内の自殺の多い3地区を「自殺対策重点地区」として、市の自殺をめぐる実態を共有し、「うつ病」と自殺の関連について学び話し合う事業を展開してきた。

【計画を立てる上での工夫・等】

- ・自殺対策重点地区を設定し、毎年継続して介入した。
- ・実態の周知やうつ・自殺予防の知識の普及だけでなく、地区役員に対して一人一人ができることを考えられるようにプログラムを構成し、話し合いを進めた。

【具体的な内容・実施の過程】

平成21～22年度 「うつ・自殺予防講演会」

内容：市の現状説明、医師講義（うつ病の理解と対応～自殺予防を考えて～）、話し合い

対象：地区役員（区長、健康推進員、筋力づくりサポーター、民生児童委員、老人クラブ、食生活改善推進員等）及び一般市民

平成23年度 「地域で心のサポートを考える会」

内容：医師講義（うつ・自殺予防のための対応やヒント）、話し合い

対象：同上

平成24年度 「地域で心のサポートを考える会」

内容：医師講義（うつ・自殺予防のための気づきのポイント）、声かけのロールプレイ、話し合い

対象：同上

・平成21～24年度は南魚沼市役所保健課で実施。

講師：南魚沼市立ゆきぐに大和病院 精神科医師、保健課保健師

・平成24年度は、3地区のうち1地区において南魚沼地域振興局健康福祉環境部（南魚沼保健所）と協働し、ワーキングチームメンバーとの会議や講演会を行った。

【成果】

▼ 「うつの症状・サインの理解」「うつと思われる人への対応方法」「相談窓口の紹介」などの目標に対する評価（アンケート調査）は、いずれも「よくわかった」「わかった」の回答者が7割前後だった。

▼ 「自分自身が取り組めそうなことがある」の回答は76.7%だった。

▼ 繰り返し参加してきた地区役員は自殺が多いことは健康課題であるととらえるようになった。

【補足】

【課題】

「もっと多くの人に知ってもらう必要がある」という意見があり、会の周知方法等今後の企画に工夫が必要である。

【事業種別】 普及啓発事業

【準備期間・人数】

【予防段階】 1次

【自治体規模】 人口57千人(H28.7.1)

【自治体負担率】 基金事業 国10/10

【事業対象】 地区役員

【支援対象】 地区役員

【実施主体・問合せ先】 新潟県 南魚沼市役所 福祉保健部 保健課 保健班

TEL：025-773-6811

【参考資料・文献】